

朝起きて身支度をするときなど日常生活の様々な場面で、私たちは自分の姿を映し出してくれる「鏡」を重宝しています。

『正信偈』に登場する善導大師は「鏡」という譬喩を用いて「経教はこれを喩うるに鏡の如し」と仰いました。お念仏の教えは、私自身の姿を映し出してくれるものである、という意味です。

私たちが宗祖と仰ぐ親鸞聖人は、お念仏の教えという鏡を見ることで、阿弥陀如来に深く悲しまれている存在として生きている我が身を凝視した方でした。「家族や地域、国などの大小様々な社会を、無数の人々と共に生きている私、親鸞は、命が尽きるその瞬間まで、とある言動に腹を立て、嫉妬し、ときには人を見下し傲慢になる存在なのだ」と。親鸞聖人は自らの身を通して、このような存在を「凡夫」として確かめてくださいました。

そして「凡夫はすなわちわれらなり」と仰いました。親鸞聖人は、凡夫として生きていく「われ」に深く頷くことによって、共に生きていく人々をも、阿弥陀如来に深く悲しまれていく存在（われら）として見出されたのです。

あなた自身は「ら」という複数人に含まれているでしょうか。今こそ、ご一緒にその鏡を見てみませんか？

